



旧松屋旅館に展示されている宿帳。



松原宿の中でも一際目を惹く旧松屋旅館。
天井が低い2階建ての和風建築は風情たっぷり。



列車でぶらり 自然と歴史めぐり
松原駅〜松原宿



松原八幡神社。この地域では相撲が盛んだそう
で、境内には土俵が見られる。毎年11月には例
祭「松原くんち」が行われている。

情緒豊かな 松原宿を往く。

江戸時代、小倉から長崎に
いたる全長五十七里（約
二百二十八キロ）の道・長崎街
道。かつて長崎に入ってきた西
洋文化はこの街道を経て、江戸
まで伝わった。現在の大村市に
あった宿場「松原宿」は約六百
四十メートルの一本道で、当時
は七十一軒の家があったとい
う。宿の中央には酒屋を兼ねた
茶屋が建てられ、諸大名が通行
する際の休憩処となっていた。

おむら歴史観光ボランティア
アガイドの向野頼洋さんは「こ
の道はシーボルトや、徳川吉宗
に献上された象も歩いた道。あ
ちこちに古い石垣が残り、当時
の風情を残しています。まるで
江戸時代にタイムスリップした
かのような気分を味わえるのが
魅力です」と話す。

松原宿の象徴的な建物として
案内されたのが、旧松屋旅館。
江戸時代、休憩場所として利用

され、その後も一九六五年まで
旅館として使われていた建物
で、現在は資料館として活用さ
れている。低い天井や急な階
段、大きな梁や囲炉裏が当時を
彷彿とさせる。二階に展示され
ている昔の宿帳は、壁の修復工
事の際に見えられたもの。宿泊
客の名前の代わりに「顔長」
「イガグリ」など、容姿の特徴
が書かれており、読めば読むほ
ど面白い。

また太平洋戦争中、旧松屋旅
館は特攻隊員の宿舎として利用
されていたそうで、ガラス障子
には戦闘機の絵とともに、特攻
隊員が残したと思われる文章が
残されている。この建物がさま



おむら歴史観光ボランティアガイドの会・会長の向野頼洋さ
んはガイド歴14年。大村の歴史に幅広く精通している。

ざまな時代や人々を見てきたこ
とが伝わってくる。
この地で受け継がれているの
が、松原刃物。壇ノ浦の戦いに
敗れた平氏の名工の子孫が、松
原に住み着き、刀を作り始めた
のが起源といわれ、約五百年の
歴史を持つ。田中鎌工業の四代
目・田中勝人さんが作るのは、
錆びないステンレス鋼の包丁。
「ステンレス鋼の包丁は大量生
産ができません。小さい工場だ
からこそ、焼いたりたたいたり
して最高級の一本を作りたいと
思っています」と田中さん。そ
こには、伝統の技を大切にしな
がらも新しいものにチャレンジ
していく姿勢があった。

松原刃物の技術を継承している田中勝人さん。



松原刃物の伝統的な包丁(左)と
ステンレス鋼の最高級包丁(右)。



列車でぶらり 自然と歴史めぐり

松原駅 ▶ 松原宿
Matsubara

松原駅から徒歩約10分